

## 第2回部会での主な意見への対応

章・該当箇所	ページ	意見	修正内容
はじめに	P1	タイムラインの作成主体を明記してはどうか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指針の副題として、「自主防災組織など地域の皆様に、「水害避難行動タイムライン」を作成していただくために」を追加</li> <li>・&lt;タイムラインの作成と活用&gt;に「※ 自主防災組織のほか、自治会～が作成することも可能」を追加</li> <li>・はじめに末尾に、「自主防災組織等において、自主的な避難行動を行うための目安を設けることを推奨するものです。」を追加</li> </ul>
第1章	P2	ハザードマップをどのように確認出来るのか、説明を記載すべき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1章に、マルチハザード防災情報システムとともに防災研修の際に活用するものとして「市町村が作成するハザードマップを活用し」を追加</li> <li>・第1章&lt;参考&gt;に、ハザードマップの説明を追加</li> <li>・巻末資料に、各市町村のハザードマップが掲載されているURLを掲載</li> </ul>
	P2	洪水浸水想定区域は、計画規模降雨のものか想定最大規模降雨のものか示すべき	第1章<参考>のマルチハザード情報提供システムの説明に、「洪水浸水想定については、①現時点では多くの府管理河川で順次作成中であること、②既存の洪水浸水想定も、前提とする降雨量を「想定し得る最大規模の降雨」に変更して見直すこととしていることから、現時点の洪水浸水想定区域は変わることがあります。」を追加
	P2		きょうと危機管理WEBの説明を追加
第2章(1)	P3～4	洪水浸水・土砂災害警戒区域に該当しない場合でも、タイムライン作成を「任意」や「有効」とするのではなく、もっと推奨する表現とすべき。ただし、明らかに浸水等が発生しないような場所であれば、タイムラインの作成は不要ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水浸水 「有効」→「推奨」 「任意」→「推奨(※)」へ修正</li> <li>「※ ただし、高台になっている地域や付近に河川がない地域、明らかに浸水しない地域等では、この限りではありません。」を追加</li> <li>・土砂災害 「有効」→「推奨」 「任意」→「推奨(※)」へ修正</li> <li>「※ ただし、山裾ではない、崖や急傾斜地がない等、明らかに土砂災害が予想されない地域では、この限りではありません。」を追加</li> </ul>
	P4	洪水浸水と土砂災害の両方を想定してタイムラインを作成する場合の、タイムラインの使い方を記載すべき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2章の末尾に、「◎ 洪水浸水・土砂災害の両方を想定する場合は、タイムラインを2種類作成することになります。」を追加</li> <li>・「土砂災害タイムラインも作成する場合は、スイッチの早い方で避難を始めて下さい。」(洪水浸水のひな型の場合)とひな型の注釈に記載</li> </ul>
第2章(2) ひな型の図	P5	ひな型の図について、住民が検討すべき内容が分かりにくいので明記すべき	ひな型イメージ図に、各STEP・ポイントの内容を追記
STEP1	P5	市町村の動きの確認として、「自主防災組織の活動や住民の避難に関係する内容を記載して下さい」は分かりにくいのではないか	説明を削除
STEP3	P6	スイッチの設定の考え方を記載すべき	スイッチ設定の考え方を追加
	P6	スイッチは、科学的根拠に基づくものではないが、住民が判断する際の目安として考えるものではないか	ポイント2(スイッチを決定)の末尾に、「避難の目安となる雨量観測値や異常現象については、一律で決められるものではありませんので、過去の災害等を参考として、各地域において設定して下さい。」を追加
スイッチの例	P6	スイッチの例は、洪水の場合と土砂災害の場合に分けて記載すべき	洪水浸水と、土砂災害とに分けて記載

章・該当箇所	ページ	意見	修正内容
スイッチの例	P6	雨量をスイッチとして使用する場 合、一般論からは、時間雨量50 mm・累加雨量200mmが目安 となるだろうが、実際の運用を踏 まえて検討が必要。	スイッチ例としては、〇〇mmの表記とし、スイッチの検 討の際の参考とするため、巻末資料に平成24～26年 の水害の際の雨量観測値(累加雨量・最大時間雨量)を 掲載。
	P6	「河川カメラで溢れるおそれがあ るとき」という文言は適切か	「河川カメラで <u>氾濫</u> のおそれが <u>認められる</u> とき」へ修正
	P6	「〇〇地点で浸水開始」では、既 に危険な状況のように聞こえる。 「浸水開始」よりも早めの内容と するか、「浸水開始」であれば内 水(用水路・水路等)も含めたも のとしてはどうか	洪水浸水のスイッチ例を、「〇〇地点で <u>水路等からの浸 水開始</u> 」へ修正 土砂災害のスイッチ例を、「〇〇地点で <u>山道が川のよう になっている</u> 」へ修正
	P6	土砂災害は、瞬間的な雨量と、 累加雨量とが基準になる。時間 雨量も、危険を察知する参考と なるため基準として残しておくべ き。	時間雨量はスイッチ例として記載を残すとともに、記録 的短時間大雨情報を、避難勧告の前のスイッチとして追 加
	P6～7	時間雨量は、レーダー雨量とは 異なるため注釈が必要	スイッチの例の注釈に、「※1 時間雨量とは1時間の間 に降った雨量の観測値であり、レーダー画像での表示 (降雨の強さ)とは異なります。」を追加
	P6～7	きょうと危機管理WEBで雨量を 確認する場合の、累加雨量に関 する説明が必要	スイッチの例の注釈に、「※ 累加雨量は、きょうと危機 管理WEBで確認できます(降雨が観測されない時間が 4時間続くと、累加雨量は0に戻ります)。」を追加
	P6～7	「洪水予報の危険度分布」が発 表されない河川もあることを記載 しておくべき	スイッチの例の注釈に、「※3 洪水予報の危険度分布 が発表されない河川もあります。」と追記
ひな型(共 通)	P8～11	カッコに入れた内容は、場合によ り行動をする可能性があるもの であることの説明を記載すべき	ひな型の注釈に、 ＜自主避難所の開設を受けた動き＞「自主避難所が開 設された場合、スイッチの状況にかかわらず、自主的に 避難することが出来ます。」、 ＜避難勧告の発令を受けた動き＞「スイッチの状況が起 こらなかった場合や、スイッチによって避難しなかった場 合等には、ここで避難する必要があります。」 を追加
	P8～11	いつ避難所から帰宅するのか記 載すべき	ひな型の最終行に、「避難勧告等の解除」と「帰宅」を追 加
ひな型(洪水 ③、土砂災 害)	P10～11	避難準備・高齢者等避難開始は 発令されない可能性もあることを 記載してはどうか	ひな型の注釈に、「避難準備・高齢者等避難開始は発令 されない可能性があります。」を追加
巻末資料 イメージ図	P16	河川の流域が分かるイメージ図 とすべき	イメージ図を修正、併せて河川の種類と特徴例の表につ いても修正
洪水予報河 川、水位周知 河川一覧	P17	市町村別に、当該市町村の区域 内に洪水浸水想定区域がある河 川(洪水予報河川・水位周知河 川)を記載してはどうか	表を修正
近年の災害 事例及び観 測雨量	P17～26		京都府で平成24～26年に発生した水害事例の概要 と、雨量観測値(累加雨量・最大時間雨量)を追加
防災担当課 の連絡先	P30～31	協働する行政の担当課・連絡先 を記載すべき	市町村の防災担当課の連絡先及び府担当課の連絡先 を追加
検討体制	P31		水害避難行動タイムライン作成指針の検討体制を追加